



Taka Ishii Gallery

Photography / Film

5-17-1 2F Roppongi Minato-ku Tokyo #106-0032, Japan

tel 03 5575 5004

fax 03 5575 5016

web www.takaishiigallery.com

email tigpf@takaishiigallery.com

ルシア・ビダレス 「To cool the blue」

会期：2020年8月1日（土） - 22日（土）[夏季休廊：8月13日 - 17日]

会場：タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム

タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルムは、メキシコ人アーティストのルシア・ビダレスによる日本での初個展を開催いたします。「To cool the blue (青を冷やすために)」と題された本展では、2018年から2020年にかけてビダレスが制作した8点の絵画作品を展示いたします。

ビダレスの作品は、絵画、その歴史、そしてそれが作動する際の特定のレパートリーをめぐる彼女のパーソナルな想像から現れてくるものです。彼女の絵画に私たちが認めるのは、生きている者たちと死んでいる者たちの印であり、画面の流れや色彩の現れや絵具の重なりといった絵画的な現象への即時的な変異の瀬戸際にある四肢や内臓の形象です。ビダレスは物質性とユーモアとの共謀関係に関心を寄せています。だからこそ彼女の作品では、悲劇性と脆く壊れやすい新たな命の生き延びによって呼び起こされる不確かな喜びとが融合し、この世を去った最愛の者たちと生き残った者たちがひとつの世界を織り成しているのです。ビダレスの絵画を彩る色の粒子は、肉体の残余にほかなりません。というのも彼女は、さまざまな印を目に見える形で残し、動きを積み重ねることで、時間の痕跡を画面に刻むからです。抽象表現主義は絵画（ペインティング）と絵（ピクチャー）との間に教条的な境界を打ち立てましたが、ビダレスが描写するドラマの少ない静かな情景は、可塑性の重力によってその境目をぼやけさせ、全体性を回復させるのです。

「この絵画は徘徊する。人当たりの良いエクトプラズムがきつとそうするように。形をさまざまに変えていく、過去を未来に合流させる力を持つ恐ろしい煙として。そこには幽霊たちがいる。絵画という営みのパーソナルな歴史の幽霊たちだ。一人称話法によって壮絶な語り口で伝えられる、姿を消した、目に見えない、あるいは放り置かれたままの想像の切片たち。その豊満と統一の拒否が想起させるのは、奇妙に夜行的で地下棲息的な文体である。私がいますぐ喜んであなたに言ってみようか、つまり次のような内容を述べるために、クラリッセ・リスベクトールはその書き方を用いた。私が洞穴を絵に描くとき、あるいはそれについての文章をあなたに向けて書くとき、いくつかの夢とともにすべてが重苦しくなる——そこから聞こえてくるのは繋がれていない何十頭もの馬たちが乾いた蹄で影を踏み鳴らす音であり、そしてまた私たち、すなわち洞穴と私は、他にどうしようもなく只ここで、やがて私たちを腐敗させる時間の最中に身を置いているのである」

クリスティアン・カマチョ

(メキシコ・シティのEdison 137で2018年11月に開催された「The time that will rot us」展のためのテキスト)

ルシア・ビダレスの作品群は、総じて時間という概念と密接に結びついています。彼女の表現活動においては、想像力の介在によってフィクションと歴史が融合し、そこから絵画やグラフィックや彫刻が作り出されていきますが、そのなかで作家が一人称視点から語るのには、複数の世代を貫いて展開するさまざまな物語なのです。キャンバス上では、広範な濃度と透明性を示す絵具のレイヤーが、大胆な筆使いのなかで生命体のような有機性を帯びています。さらにそれは、作品の表現性をより強化するかのよう、光や空間との相互関係によって刻々と姿を変えていきます。絵画制作が過去と現在の外傷に形而上学的な豊かさと安らぎをもたらす試みであるならば、ビダレスの画面に盛られた色彩がひとつのシニフィアンとして証言するのは、人間の労力がそのような営みに注がれていく時間的な過程そのものでしょう。

SHOP Taka Ishii Gallery (香港) で開催されるグループ展「iViva México!」でもビダレスの作品をご覧ください。

【同時開催の展覧会】

グループ展 「iViva México!」

会期：2020年7月24日（金） - 9月27日（日） [夏季休廊：8月9日 - 17日]

会場：SHOP Taka Ishii Gallery (香港)

ルシア・ビダレスは1986年メキシコ・メキシコシティ生まれ。現在はモンテレイに在住し、モンテレイ大学で教鞭を執りつつ制作活動を展開。2009年にナショナル・インスティテュート・オブ・ファイン・アーツ (INBAL) の国立絵画彫刻版画学校「ラ・エスメラルダ」を卒業。2014年にはメキシコ国立自治大学 (UNAM) の美術デザイン学部を修了。主な個展として House of Deslave (ティファナ)、Galería de Arte Mexicano (GAM)、Galeria Alterna (メキシコシティ、2019年) など。近年のグループ展としては「Murales para un cubo blanco」 Sala de Arte Público Siqueiros (メキシコシティ、2020年)、「Prince. sse. s des villes」パレ・ド・トーキョー (パリ、2019年)、「100 Sculptures」 Anonymous Gallery (メキシコシティ/パリ、2019年)、「Naturally」 Lulu (メキシコシティ、2018年)、「Tiger Poems and Songs for Hurricanes」 Galería Travesía 4 (グアダラハラ、2018年)、「Montar la Bestia」 USC フィッシャー美術館 (ロサンゼルス、2017年)、国立メキシコ鉄道博物館 (プエブラ、2017年) などが挙げられる。

是非、貴誌・貴社にて御紹介下さいますようお願いいたします。

尚、掲載用写真の貸出など、御質問がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム

展覧会担当：上松 エリサ プレス担当：水谷 彩

〒106-0032 東京都港区六本木5-17-1 AXISビル2F tel: 03-5575-5004 fax: 03-5575-5016

e-mail: tigpf@takaishiigallery.com website: www.takaishiigallery.com 営業時間：11:00-19:00 定休日：日・月・祝日



Lucía Vidales
“A simple vista (To the naked eye)”, 2018
Oil on canvas over panel
15 x 10 cm

© Lucía Vidales
Courtesy of Taka Ishii Gallery



Lucía Vidales
“Aire caliente (Warm air)”, 2020
Oil and acrylic on canvas
90 x 70 cm

© Lucía Vidales
Courtesy of Taka Ishii Gallery